

にいがたの くらしと自治

2025年9月号

2025年9月15日



▲稲刈りを終えた水田と秋空（新潟市西区田島付近、2025年9月16日）

にいがた自治体研究所

〒950-0901 新潟市中央区弁天3丁目3-5 新潟マンション305号

TEL 025-240-8645 Fax 025-240-8646

e-mail : njitiken@yahoo.co.jp

「にいがた自治体研究所」のホームページです⇒



余りに意図的、KK 原発再稼働に関する新潟県民意識調査

2025年9月8日 立石 雅昭 (にいがた自治体研究所副理事長)

(新潟大学名誉教授:地質学)

(新潟県の原発の安全管理に関する技術委員会元委員)

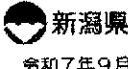
露骨な再稼働賛成誘導の県民意識調査

9月3日、新潟県は、柏崎刈羽原子力発電所の再稼働に関する県民の意見について、野村総研に調査/分析を委託した「意識調査表」を公表し、随時、県民に発送、9月18日締め切りで行うことを公表した。30km 圏内 6000 人、ほか県内 6000 人に送付し、50%の回収をめざすとしている。調査表はすでに、かなりの県民の手元に届いているものと思われるが、この意識調査内容は、露骨に、再稼働賛成への誘導内容となっている。新潟県の再稼働賛成への姿勢を明確に示している。

先に行なった公聴会なるものも、一般公募だけでなく、建設業・運送業などの経済団体を初め、いくつもの団体推薦を求め、条件付き賛成を表明せしめた。その上で、今回の意識調査ではそれらの条件があたかも対策が練られているかのような設問の仕方をしているのである。

以下、個々の設問の問題を、不十分ではあるが、私なりに整理してみた。参考にして頂ければ幸である。なお、設問は全部で11項目になっているが、設問6から11は、回答者の属性を問うものとなっているので、ここでは触れない。

まず、調査にあたってのお願いや方法を記した表紙。県民がこの調査表をプリント印刷して回答を寄せる、あるいはWeb上で回答することを拒み、調査票が送られた方がのみが回答できる方法をとっている。もちろん、賛成/反対いずれにしても、組織的に妨害する可能性があるのではあるが、再稼働に関心を持つ多くの県民の意見を除外して良い根拠にはならない。組織的妨害をどのよう



令和7年9月

柏崎刈羽原子力発電所の再稼働問題に関する 県民の意識調査 調査票

～ ご協力をお願い ～

県では、柏崎刈羽原子力発電所の再稼働問題について、県民の多様な意見を把握するため、地域・年代・性別等の幅広い属性を対象に今回の調査を実施しています。

ご多用のところ大変恐れますが、今後の再稼働問題に係る検討にあたって重要な調査でありますので、**9月18日(木)までに**、本調査票にご回答いただき同封の返信用封筒によりご返送いただくか、以下の専用WEBページからご回答いただけますよう、お願いいたします。

なお、この調査は選挙人名簿抄本から無作為に抽出した県民の皆さま1万2千人にお願いするものです。

ご記入にあたってのお願い

- この調査は無記名式であり、調査で得られた結果はすべて統計的に処理されるため、個人が特定されることはありません。また、調査目的以外には使用いたしませんので、ご協力いただいた方にご迷惑のかかることは一切ございません。日頃のお考えを率直にお答えください。
- アンケートへの回答は、封筒のあて名の方で本人がお答えください。ただし、ご本人の記入が困難な場合は、代筆でも構いません。
- お答えは原則として、問1から問6、質問ごとに用意した答えの中から、あなた（あなたのお考え）にあてはまる番号を○印で囲んでください。（問5-2、問6は番号を記載ください。また問5-3、5-4は記述ください。）質問文に「1つだけ」、「いくつでも」などの指定がある場合は、その指定に従ってお答えください。

本アンケート調査は、WEBからもご回答いただけます

次のURL又は右の2次元コードからアンケート画面へお入りください。

URL:

ログイン画面が表示されますので、以下のIDとパスワードを入力してご回答ください。

ID: _____ パスワード: _____

※このIDとパスワードは、悪徳回答を防ぐためのものでランダムに設定されています。個人を特定するものではありません。

※WEBからご回答いただく場合は、調査票への記入・返信は不要です。

【お問い合わせ先】(平日9時00分から17時15分まで)

アンケートの趣旨や内容に関するお問い合わせ	新潟県防災局原子力安全対策課 (〒950-8570 新潟市中央区新光町4-1)	電話: 025-282-1698
記入方法やWEBからの回答方法などのお問い合わせ	株式会社スピーディー (〒950-0026 新潟市東区小倉町1-7-1)	電話: 025-270-3800

【原子力発電所の必要性について】

問1 柏崎刈羽原子力発電所に係る、日本における原子力発電の必要性について、あなたのお考えに最も近いものを2つ選んでください。(○は1つだけ)

- 必要だと認む
- どちらかと言えば必要だと認む
- あまり必要だと認む
- 必要だと認む
- わからない

【柏崎刈羽原子力発電所の再開に関する関心について】

問2 柏崎刈羽原子力発電所の再開に関してどの程度関心がありますか、あなたのお考えに最も近いものを2つ選んでください。(○は1つだけ)

- 強い関心がある
- 関心がある
- あまり関心がない
- まったく関心がない

【柏崎刈羽原子力発電所の安全対策について】

新潟第一原子力発電所事故の教訓や原子力規制委員会が定めた新規規制などを踏まえ、柏崎刈羽原子力発電所では、さまざまな安全対策の強化が行われています。(詳しく知りたい場合は「別紙」をご参照ください)

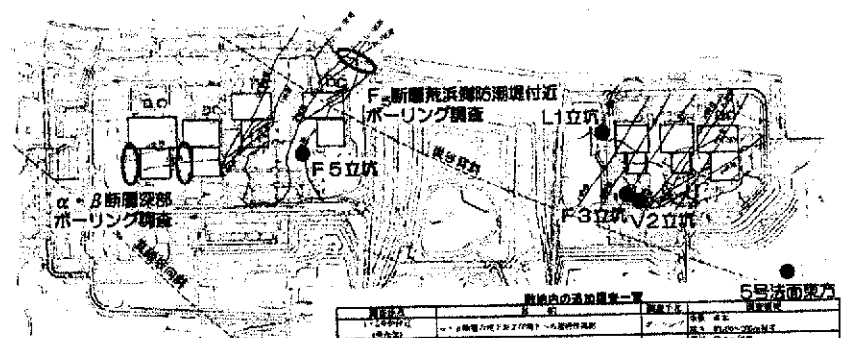
問3-1 あなたは以下の対策が行われていることと知っていますが、写真や図で示した対策を1つでも知っている(知っている、ひとつも知らない)はどちらですか、写真や図で示した対策を1つでも知っている(知っている、ひとつも知らない)はどちらですか。(○は複数回答可)

対策	知っている	知らない
	(1)	(2)
(1) 地震による浸水を防ぐための強化した対策	1	2
(2) 火災・爆発等による浸水を防ぐための強化した対策	1	2

る設問。まさに東電の宣伝そのまま。県の認識が問われる設問である。柏崎刈羽原発で行われている安全対策の不十分さが全く無視され、安全管理に関する県技術委員会での議論も紹介されないまま、東電はこれだけ対策

概要

敷地に分布する断層が、将来活動する可能性のある断層等に該当するかどうかについて検討するため、適合性審査における議論を踏まえ、新たに下記の追加地質調査を行った。



断層の追加調査結果

断層名	調査結果	評価
α断層	調査結果	評価
β断層	調査結果	評価
γ断層	調査結果	評価
δ断層	調査結果	評価
ε断層	調査結果	評価
ζ断層	調査結果	評価
η断層	調査結果	評価
θ断層	調査結果	評価
ι断層	調査結果	評価
κ断層	調査結果	評価
λ断層	調査結果	評価
μ断層	調査結果	評価
ν断層	調査結果	評価
ξ断層	調査結果	評価
ο断層	調査結果	評価
π断層	調査結果	評価
ρ断層	調査結果	評価
σ断層	調査結果	評価
τ断層	調査結果	評価
υ断層	調査結果	評価
φ断層	調査結果	評価
χ断層	調査結果	評価
ψ断層	調査結果	評価
ω断層	調査結果	評価

に防ぐかを考え、多くの県民の意見を聴取する回答方法に改めるべきである。設問1から2。

ここでは原発の必要性と関心についての設問。福島原発事故以降、すべての原発が停止して以降の電源に支障が無かったことや、西日本を中心に再稼働されて以降電源の立地地元などの経済動向分析無しで問うている。

設問3は柏崎刈羽原発の安全対策に関わ

対策	知っている	知らない
	(1)	(2)
(3) 電源を絶やさないために強化した対策	1	2
(4) 原子炉を冷却し続けるために強化した対策	1	2
(5) 重大事故を防止するために強化した対策	1	2
(6) (1)～(5)を踏まえ、原子力発電所の対応力を強化した対策	1	2

していますというしるもの。次のページも、その東電の対策の続き。

さて、ここで、私がいま、最も重大な問題だと思っている課題を挙げる。それは、敷地

内に新たに見いだされたとする15本の断層についての情報を全く公表しないで、「安全」だと強弁している問題である。柏崎刈羽原発の敷地内には、1号基から7号基の設計・建設時に建屋などの直下に23本の断層があることが報告されてきた(左図参照)。問題はそのうちの13本が、このほど再稼働しようとする5~7号基の立地する大湊側に存在していたことである。このほど新たに見いだされたとする15本は、この大湊側に特定重大事故体処施設(特重施設)を建造するに当たっての調査で見いだされた断層である。この大湊側の敷地の断層密度は異常に

高いのである。この密度で存在する断層について、県技術委員会で、テロ対策だからとの理由で、全く報告/審議無しで安全宣言をすることは許されない。これらの断層の活動様式/年代について、周辺で大きな地震が生じた際にどう動くのか、と言った議論も全く行われていない。

設問4は、防災避難計画についてである。県や自治体が防災避難計画を策定するのは当然であるが、大変な困難を抱えている現状について全く触れていない。特に、能登半島地震であらわになった地震と原発事故という複合災害時、また、新潟とい

【原子力災害に備えた防災対策について】

問4-1 県では、柏崎刈羽原子力発電所からの距離に応じて、半径概ね5km圏をPAZ(放射性物質放出前に避難等を実施する区域)、半径概ね5~30km圏をUPZ(放射性物質放出に備えて屋内退避し、放出後は放射線区に応じて避難等を実施する区域)と設定しています。

あなたはPAZやUPZについて知っていますか。(○は1つだけ)

1. 言葉だけで(内容も知らない) 2. 言葉だけ知っている 3. 知らない

柏崎刈羽原子力発電所で原子力災害が発生した場合に備え、さまざまな「防災対策」が行われています。

問4-2 あなたは以下の対策が行われていることを知っていますか。(○は横方向にそれぞれ1つずつ)

回答例 →	知っている	知らない
(1) 県や市町村による避難計画の策定 原子力災害時の情報伝達や住民の避難方法、避難先市町村などの対応をまとめた避難計画を策定しています。	1	2
(2) 住居避難をより円滑にするための避難路の整備や除排体制の強化 県と県で協議し、既存避難路の改修やスマートインター新設等を進めています。また、消雪パイプの整備等、除排雪体制の強化に向けて取り組んでいます。	1	2
(3) 避難に使用するバス等の交通手段の確保 県バス協会や県ハイヤータクシー協会等と避難者の輸送のための協力協定を締結し、訓練等を通じて連携を深めています。	1	2
(4) 医療機関や福祉施設などの放射線防護対策(建物の気密化等) 無理に避難することで健康リスクが高まる人が、安全に避難する準備が整うまで屋内に留まるための施設の整備を進めています。	1	2
(5) 自宅以外で屋内退避が実施できる施設の改修 自宅等が損壊した場合に、避難所となる学校の体育館等で屋内退避できるよう、空調設備の設置等に向け国と取組みを進めています。	1	2
(6) 安定ヨウ素剤の事前配布・備蓄 甲状腺の内部被ばくを低減する安定ヨウ素剤の事前配布と備蓄を行っています。	1	2
(7) 放射線量を監視する設備(モニタリングポスト等)の設置 県内にモニタリングポストを設置し、常時、放射線量を観測するとともに、結果をホームページで公開しています。	1	2
(8) 原子力防災訓練の実施 県や市町村等と、原子力災害と地震や噴火との複合災害を想定した訓練を行っています。	1	2

問4-3 問4-2で選択した対策に取らず、防災への取り組みはどの程度実施できていると見えますか。最も近いものをお選びください。(○は1つだけ)

1. 十分実施できている 2. おおむね実施できている 3. あまり実施できていない 4. まったく実施できていない 5. わからない

う地域的特性の中で、豪雪時への対応などなど、対策はほぼすべて、今進行中でしかない。しかし、今ここで再稼働を容認すれば、対策半ばで稼働に至ることは明らかである。これでは、周辺住民はもとより、新潟県民、しいては広く国民、の安全は守れない。

そして、重要な点は、新潟の基幹産業である農業も壊滅的打撃を受けることは必定である。

【柏崎刈羽原子力発電所6号機・7号機の再稼働に関する考え方】

問5-1 以下は柏崎刈羽原子力発電所6号機・7号機の再稼働に関する考え方を挙げています。

以下のそれぞれについて、あなたご自身の考えをお選びください。なお、あなたに該当しないことでも、その立場に立ってお答えください。(○は横方向にそれぞれ1つずつ)

	そう思う	そう思うが、もう少しは思わない	そうは思わない	そうは思わない
回答例 →	1	2	3	4
再稼働の前提条件				
(1) 福島第一原発事故の教訓等を踏まえ十分な安全対策が取られている	1	2	3	4
(2) 東京電力が柏崎刈羽原子力発電所を運転することは心配だ	1	2	3	4
避難路の整備				
(3) 安全に避難できるよう、避難路のさらなる整備が必要だ	1	2	3	4
(4) 安全に屋内退避できるよう、放射線防護対策の整った施設のさらなる整備が必要だ	1	2	3	4
(5) 豪雪時に安全に避難・屋内退避できるよう、除雪体制のさらなる整備が必要だ	1	2	3	4
再稼働による影響				
(6) 電力の安定供給につながる	1	2	3	4
(7) 地球温暖化対策につながる	1	2	3	4
(8) 地域経済や雇用に良い影響がある	1	2	3	4
(9) 自分の住む地域にさらなる具体的なメリットが必要だ	1	2	3	4
(10) 原子力災害が発生した場合、風評被害が起きないか心配だ	1	2	3	4
(11) 原子力災害が発生した場合、十分な補償を受けられるか心配だ	1	2	3	4
(12) 原発の使用済核燃料が増えていることが問題だ	1	2	3	4
その他				
(13) 6号機・7号機以外については、いくつかの号機の廃炉を進めることが必要だ	1	2	3	4
(14) 再稼働の条件は現状と整っている	1	2	3	4
(15) どのような対策を行ったとしても再稼働すべきでない	1	2	3	4

問5-2 問5-1のうち、あなたが6号機・7号機の再稼働を考えると、特に重要と考えるものをお選びください。(1)~(13)の中で、1位から3位まで1つずつ選んで、下の回答欄に番号を記入してください)

<回答欄>

1位	2位	3位
()	()	()

問5-3 問5-1のうち(1)~(13)以外であなたが重要と考えることがあれば記入してください。

問5-4 問5-2、5-3のようにお考えになったきっかけや理由があれば具体的に記入してください。

いは2に○を伏し頂きたいと思えます。

設問5-2、5-3では、安全対策や防災避難計画の現状では反対する旨、さらには不安に思うことや危惧することを明確に記してください。

以上、あくまでも私的な参考意見です。

本来であれば、この県民意識調査なるものやその項目について、多くの方達と意見を交わしながら、問題点を整理するべきなのですが、18日が回答期限ということも勘案して、私なりの今の見解とします。

関ミチ子さんを訪ねて

紀行文～茨城県つくば市（2025/9/4～9/5）

女性政策部会 渡邊朝子

女性政策部会は2か月に1度行われ、様々な新潟県の自治に関する勉強会を行って、いままで106回行ってきました。このような息の長い活動を最初から支えてくれた中で関ミチ子さんは中心となってくれました。

ところが家庭の事情から、茨城県土浦市に越されてしまいました。ぜひ会いに行きたいとの思いが持ち上がり、つくば市の観光を兼ねながらお尋ねすることにしました。

9月4日、朝7時新潟駅南口から出発、各インターで皆さんを乗せ、バスの中はおしゃべりで賑やかに楽しく時間を忘れて過ごしていました。

途中、高速道で事故があったとのことで大幅に迂回させられましたが、それほどの遅れなく無事、土浦市の関宅まで到着。

総勢12人、実は一人がコロナ罹患で来られませんでした。まざまざとコロナウィルスの恐怖と、政府の5類への移行の間違いを認識しました。



つくば市は北に筑波山を擁し、関東ロームに広がった農村地帯でしたが研究学園都市として開発されています。

←Jaxsa（宇宙航空研究開発機構・筑波宇宙センター）見学。

関係者が長野県栄村にいらして、桑原さんと親交があり、紹介されたとのこと。確かに高年齢のツアーには組み込まれない、ところですね。

100Km上空が宇宙です。展示が色々ありましたが、読み切れなくて、しかし、「かぐや」から見た月の映像は圧巻でした。無重力でも食べ物がこぼれないという食事は高校生が開発したと。若い人の可能性を素晴らしいと思いました。

筑波山温泉青木屋に宿泊。眺望の素晴らしいこと。夜景の輝きはつくば市です。天気が良ければ、富士山やスカイツーも見えるとか。温泉で疲れを取り、食事豪華で、

食べて寝るだけの幸せを感じます。それぞれ日頃の活躍を紹介しあいました。

地域に根差し、つながりを大事にした活動は目を見張るものがあります。引っ越されて間もない、関さんが近所の親子とのふれあいの話を聞いて、さすがに関さんだと思いました。

翌9月5日は朝から雨で、線条降水帯が居座るという予報からは良いほうで、晴れることを期待して予定通りの行程です。

筑波実験植物園に行きました。植物の多様性を守り研究をしている、みなれたキュウリやナスも研究材料です。綿のオクラのようなきれいな花に私は驚き、綿摘みの映像は良くありますが花の咲いているのは初めて。雨なので、熱帯雨林の植物の温室に行きました。見たことのない植物の巨大さに驚かされます。原始の恐竜の世界かな！



植物園全体からすれば、ほんの一部だけしか見られません。一日をかけて散策しても見切れない広さです。

（←川の流れの模型標本）

地質標本館に行きました。地震国大国の日本の地殻変動をあからさまに見せてくれました。

使用済み核燃料を10万年も保管できる地方はどこにもありません。地球の歴史、化石などを見ていると、時間があっという間に過ぎていきました。

（植物園案内図→）

この3か所の博物館は無料でした。学園都市が、住民のみんなのものであることに、この街の発展もあると思いました。

楽しい2日間の観光は終わりました。帰りは順調に新潟につきました。



第77回

(オンライン) 市町村議会議員研修会 zoom開催

新しい戦前に直面する 地域・自治体の役割を考える



日時：2025年10月20日(月) 13時30分～15時45分

■講義

いま、核のない世界を築くために
—新しい戦前に直面する地域自治体の役割—

2015年9月19日の安保法制成立から10年。アメリカからの戦闘機購入など武力整備圧力が進む中、2022年12月には反撃能力保有を規定した安保三文書の「改正」が行われ、いま全国で米軍と自衛隊の基地機能の強化が進み、地域が戦時体制に巻き込まれ、犯罪や騒音、環境破壊など、地域住民のいのちと暮らしが脅かされる事態が進んでいる。被爆80年戦後80年の今年。進む戦時体制づくりに地方から何ができるのか。政府の動きをとめる条例づくりなど全国各地の取組みを学ぶ。



■講師：中山 徹 自治体問題研究所理事長・奈良女子大学名誉教授

■報告：沖縄における憲法と地方自治を守る自治体の取組み

■報告者：新垣 千秋 沖縄県北谷町(ちゃたんちょう)



企画：自治体問題研究所 主催：自治体研究社

(オンライン) 第77回 市町村議会議員研修会 zoom開催
2025年10月20日(月) 13時30分～15時45分

■お申し込み方法、受講料

研修会 ホームページ からお申し込みください。
<https://www.jichiken.jp/>



自治体問題研究所

【受講料】

税込10,000円(自治体問題研究所・地域研究所個人会員：税込9,000円)

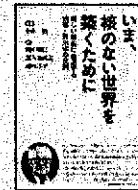
■申込締め切り日 10月14日(火)

- ◇職員の方に限らず受講いただけます。
- ◇お申し込みいただいた順に、受講料の振込口座をメールでご案内します。
- ◇見逃し視聴あり(開催日から1週間以内)。
- ◇キャンセルの際は、ご入金の有無に関わらず必ずご連絡ください。
開催日の8日前(10月12日)からキャンセル料が発生します。
詳しくは研修会ホームページをご覧ください。



■参考テキスト

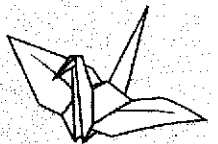
- ・研修会参加者に限る税込特価です。
- ・送料一律400円でお送りします。
- ・研修会ホームページからご注文いただけます。



「いま、核のない世界を築くために
—新しい戦前に直面する地域・自治体の役割—」

税込特価 1,400円

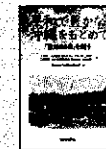
中山 徹 編著
田中 照巳 / 渡久地 政志 / 遠可 洋平 著



「辺野古裁判と沖縄の誇りある自治
—検証 辺野古基地建設問題—」

税込特価 1,400円

紙野 健二 / 本多 滝夫 / 徳田 博人 編



「平和で豊かな沖縄をもとめて
—「復帰50年」を問う—」

税込特価 1,100円

おきなわ住民自治研究所 編
宮本 憲一 / 桜井 國俊 / 白藤 博行 / 小林 武 /
川瀬 光義 / 砂川 かおり / 石川 満 / 山野 良一 /
照屋 謙実 / 島袋 隆志 著

◇お問い合わせ先 〒162-8512 東京都新宿区矢来町123 矢来ビル4F TEL: 03-3235-5941
自治体研究社 議員研修会係 FAX: 03-3235-5933 e-mail: info@jichiken.jp